

日本の食料輸入と世界

単元について

1

単元名 「日本の食料輸入と世界」 2時間構成

● 本単元の位置づけ方

公民的分野「現代日本の歩みとわたしたちの生活」、地理的分野「資源や産業から見た日本の地域的特色」に位置づける。なお、新学習指導要領で行う場合、「よりよい社会を目指して」に位置づけるとよい。できれば次の単元3も取り上げて、食料確保について総合的に考察させたい。その際、本単元の第2時の後半をやらずに、次の単元3の第1時を組み合わせるなどすれば、3時間構成も可能。地理的分野で取り上げる場合は、できれば第1時を2時間扱いとして、その第1時で本展開案の展開1まで、第2時で展開2以降を指導するなどが考えられる。

2

単元の特徴

- 食料の輸入について、世界的な視野から、日本の食料自給率の低さを把握し、その理由と将来の課題について考える単元である。その際、日本の風土の特色、世界の食料事情について考察する。
- グループ学習を取り入れて問題把握するほか、異なる視点から考察している他のグループの発表を聞いて、問題を多面的に考察するように構成。自分なりの考えをもてるようにする。

3

単元の目標・ねらい

- 日本が外国と比べ多く輸入している事実と、その背景を理解させる。
- 世界の食料事情が変化していることと、日本の食料輸入の課題についてとらえさせる。
- 日本の農業構造が脆弱化していることに気づかせ、今後の食料確保について考えさせる。

4

評価の観点

- 日本が食料を多く輸入していることと、その背景を理解できたか。
- 日本が食料を今後も大量輸入できるとは限らないことを、世界の食料事情の動向を基に考えられたか。
- 今後の食料確保について、自分なりの考えを深めることができたか。

5

授業を展開するにあたって

● DVDの視聴について

導入で第1部の最初の部分を視聴して、食料自給率の低さを把握する（「先進国」の中でも自給率が最低であることまでの部分。その後続く食生活の変化と健康面の問題を含めてもよい）。本単元のみ取り上げる場合は、第2時のまとめで第1部の後半（食料自給率100%は困難、というあたりから）を見せるとよい。

● グループ構成について

グループの生徒数は4人が望ましい。学級生徒数によりグループ数を決める。内容が3つあるので、各内容について2-3グループで話し合うこともあり得る。

● 本単元の視点

輸出国の視点: 国内供給が最優先。輸出仕向け率は低い。バイオ燃料生産の増大。環境悪化。

世界市場の視点: 輸出国が特定の国・地域に限定。途上国などでの需要拡大。食料の奪い合い。

日本の視点: 恵まれた国土・水産資源。低い食料自給率。食料完全自給は困難。高価格でも輸入が必要。

食品産業の視点: 加工品、冷凍食品、中食などが増え、それらに多くの輸入食材が利用されている。

指導案

第1時 食料の輸入と日本の農業

進行	学習内容	留意点等	資料
導入 10分	<ol style="list-style-type: none"> 身近な食材が海外から大量に輸入されていることをつかむ。 それらの食材の輸入相手国を調べる。 	<ul style="list-style-type: none"> 食材の輸入に関するニュースなどを利用して、関心を高める。 	<ul style="list-style-type: none"> DVD 第1部：導入部分 食料の輸入相手国（『通商白書』、『日本国勢図会』）
展開1 20分	<ol style="list-style-type: none"> 食料自給率が国際的に見てもたいへん低いことをとらえる。 自給率の低い食材と、そうでない食材があることを読み取る。 「日本の食料を、海外からたくさん輸入しているのは、なぜだろう」 答えを予想する（安い、国内では賄えない、貿易摩擦による外圧、食品産業の輸入拡大など）。 資料で確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> 日本の自給率の低さを相対化させる。 米や魚介類は相対的に自給率が高いが、肉類や油脂類が特に低いことに注目させたい。 地理的分野で学習したことを思い起こさせるようにしたい。あるいは、この問題を考える視点を考えさせるとよい。 	<ul style="list-style-type: none"> おもな国の食料自給率（『日本国勢図会』） 資料7 資料17
展開2 10分	<ol style="list-style-type: none"> 日本は食料生産に向いていないのか、考えさせる。 国土が狭いわりに人口が多いのも、稲作をはじめ農業の自然条件に恵まれていることによる。また、よい漁場に接近し、水産資源も豊かであることをつかむ。 	<ul style="list-style-type: none"> 堆積平野で土地が肥沃であること、高温多雨の気候、河川が高密度で分布し、川が上流から運んでくる栄養分を摂取できること、河川を中心に粘土質の土壌が展開していること、水産資源や水資源の豊かさをおさえる。 	
まとめ 5分	<ol style="list-style-type: none"> 食料の輸入が増えて、日本の農業構造が脆弱化していること。その結果、国土の保全にも影響を与えていることをおさえる。 	<ul style="list-style-type: none"> 農業が国土保全に役立っていることにも気づかせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 資料12 資料17

第2時 世界の食料事情と日本

進行	学習内容	留意点等	資料
導入 5分	<ol style="list-style-type: none"> 食料は海外に任せたらよいという意見について、意見を述べる。 	<ul style="list-style-type: none"> 賛否両論を出すようにする。この段階では関心を高めればよい。 	<ul style="list-style-type: none"> 資料9
展開1 15分	<ol style="list-style-type: none"> 「日本は海外から食料を買い続けることが、できるのだろうか」 3グループに分かれて、世界の食料事情についての課題を読み取る。（輸出国の状況、穀物需要、バイオ燃料） 	<ul style="list-style-type: none"> 食料輸入の問題は、外国の立場からも考える必要があることをおさえておく。 「先進国」での地下水の枯渇や表土流失など農業生産条件の悪化、「途上国」での人口増加と経済発展、バイオ燃料の生産の影響をおさえる。 	<ul style="list-style-type: none"> 資料7,11 資料1 資料3
展開2 10分	<ol style="list-style-type: none"> 各グループで調べたことを発表し合う。発表を聞いて、その要点をつかむ。 	<ul style="list-style-type: none"> 聞く生徒には、発表で指摘された課題の要点を整理させる。 各グループで使った資料を見ながら、発表を聞かせる。 	
まとめ 20分	<ol style="list-style-type: none"> 今後とも食料を確保するためにどうしたらよいか考え、自分の意見をまとめる。 友だちと意見交換する（グループ）。 グループで出た主な意見を発表する。 	<ul style="list-style-type: none"> 日本の農業生産、食料の輸入継続の両面から考えさせるようにする。また、消費者としての自分のあり方を、見直させるようにしたい。 	

ワークシート

「日本の食料輸入と世界」ワークシート1

年 組 番 氏名

1 おもな国の食料自給率の資料から、日本の食料自給率について、どんなことがわかりますか。

2 資料7から、自給率の低い食材と高い食材を抜き出してみよう！

自給率の低い食材	自給率の高い食材
どんな食材だろう	どんな食材だろう

3 日本が海外から食料をたくさん輸入している理由を考えてみよう！

予想	確認(資料17を参考にしてみよう)
----	-------------------

4 日本は食料生産に向いていないかどうか考えてみよう！

5 まとめ(本時の授業で学んだことをまとめてみよう)

「日本の食料輸入と世界」ワークシート2

年 組 番 氏名

1 「食料は海外に任せたらよい」という意見について考えてみよう！

この意見に(賛成、反対)です。なぜならば……

2 日本は海外から食料を買い続けられるのだろうか、話し合ってみよう！

自分たちの班のテーマ「 」	
他の班のテーマ「 」	
他の班のテーマ「 」	

3 食料を確保していくためにはどうしたらよいか、考えてみよう！

自分の考え	班員の考え
-------	-------